

# siacle 608P II

## WINKER POSITION CONTROL & MULT CONTROL

この度は弊社製品<シエクル608P II>をお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。本製品は車両ウインカーを米車風にポジション化することが出来るキットです。また配線方法によりハイビーム、フォグランプ、ハイマウントブレイクランプのポジション化制御も可能です。

なを本体デッブスイッチの切り替えにより簡単にノーマル状態に戻すことが可能です。

本製品を安全にご使用して頂く為に、装着ならびご使用前に必ず本説明書を読んで、内容を十分に理解のうえ取り付け作業をおこなって下さい。

**お願い!** 本製品は性能向上などの理由により取り扱い説明書の変更をおこなっております。お手元の取り扱い説明書のVol番号が最新でない場合はお手数ですが当社ホームページを閲覧のうえ、最新版の取り扱い説明書を参考に取付作業、調整をおこなって下さい。

**注意!** 車検については【車検について】の項目を参考にして下さい。

使用・調整はお客様の自己判断、責任においておこなって下さい。(※配線によりノーマル状態にすれば車検は問題ありません)

**△危険** この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、本人または第三者が死亡または重傷を負う可能性が想定される差し迫った危険な状況を示します

- 本製品は精密部品です。水のかかる場所や水のある場所で作業をしないでください。壊れる原因となります。
- 本製品および付属品は確実に固定し、運転の妨げになる場所・不安定な場所に取り付けしないでください。運転に支障をきたし事故の原因となります。
- 車両・製品より異音、異臭などの異常が発生した場合、ただちに使用を中止し専門業者にて点検、整備を行って下さい。修理等に関してはお客様ご自身で対処すると怪我などの恐れがあり危険です。必ずプロの知識を持った専門業者へ依頼してください。
- 本製品の装着により車両に異常が出たままの状態で行くと、予期せぬトラブルを誘発するばかりでなく、事故を招く可能性があります。性能が損なわれている場合は専門業者にて点検、整備を行ってください。
- 運転中は走行中に本製品の操作を行うと事故の原因となる恐れがあり大変危険です。
- 本製品の加工・分解・改造などは一切行わないでください。事故、火災、感電、電装部品の破損、焼損の原因となります。加工・分解・改造等の形跡が見られた場合、クレーム・修理の対象外とさせていただきます。
- エンジン本体、ラジエター、排気関係の部品は高温になり、火傷の恐れがあります。必ず各部品の温度が下がってから作業 をはじめてください。

**△警告** この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと本人または第三者が軽傷または中程度の傷害を負う可能性が想定される潜在的に危険な状況を示します

- 本製品は車両電源がDC12V専用です。12V/24V兼用車または、24V車には使用しないで下さい火災の原因となります。
- 本製品の取り付け時はエンジンルーム内の電気配線や配管類を傷つけないように注意してください。ショートなどにより火災、電装品、エンジン、車両の破損の原因となります。使用しない配線などは、絶縁テープを巻くなどして必ず絶縁対策を行って下さい。
- カプラーを外す場合には無理にハーネスは引っ張らず、必ずカプラーを持って取り外してください。ハーネスが破損すると、ショートなどにより火災、電装品の破損、焼損の原因となります。また製品の故障の原因となります。

**△注意** この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、物質損害を負う可能性が想定される潜在的に危険な状況を示します。

- 本製品の取り付けは専門業者に依頼してください。間違った装着や使用方法により車両装備品およびエンジン破損につながる恐れがあります。
- 本製品は精密部品ですので装着前に落下させたり装着時に無理な力を加えないでください。作動不良を起し、車両を破損させる恐れがあります。
- 取り付け作業のために一時的に取り外す純正部品は、破損、紛失しないように大切に保管してください。弊社では、取り付け作業による物的損害の責任を負うことが出来ませんので慎重に作業を行ってください。
- 本製品は精密部品ですのでハーネスの取り回しで強力な信号、ノイズの発生ししやすい箇所は避けてください。誤作動する恐れがあります。
- 本製品に付属するハーネスは耐熱部品ではありませんので高温部を通す場合は必ず熱対策をおこなってください。

### 【取り付け方法】

#### <工具について>

- ◎取付作業には配線加工をしますので圧着ペンチ、絶縁テープ、電圧計テスター等が必要です。
  - \*誤配線・接触不良等による本体破損はクレームの対象にはなりませんので慎重に取り付けてください。
- ◎ヘッドライト・バンパー等はずして作業したほうがスムーズに取り付けがおこなえる場合があります。判断してから作業をおこなって下さい。

#### <使用用途の決定>

608P IIは配線箇所、方法にて下記の制御が可能です。(A)~(C)のどの制御をおこなうかを決定してから作業をおこなって下さい。

**注意!** 1つの製品で(A)~(C)の同時制御はできません。

#### (A) フロントウインカーポジション

- フロントウインカーをポジション化することが出来ます。

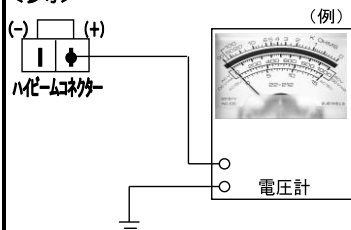
#### (B) 全灯ウインカーポジション

- 全てのウインカーをポジション化することが出来ます。
- 別売のアダプター(S608C2-ALA/税別¥3,000)を使用することにより、リアウインカーのみノーマル状態にすることも可能です。

#### (C) ハイビームポジション・フォグランプポジション

- HID車には装着出来ません。
- プラスコントロール方式の車両にしか装着できません。下記資料にて確認して下さい。
  - \*フォグランプは全てプラスコントロールになっています。

#### <参考>



#### 【ハイビームのコントロール方式の確認方法】

- ハイビームの左右どちらかのコネクタを抜きます。
- ライティングスイッチをロービームにしてコネクタの電圧にて判断して下さい。
  - プラスコントロール車は0v
  - マイナスコントロール車は12vが発生

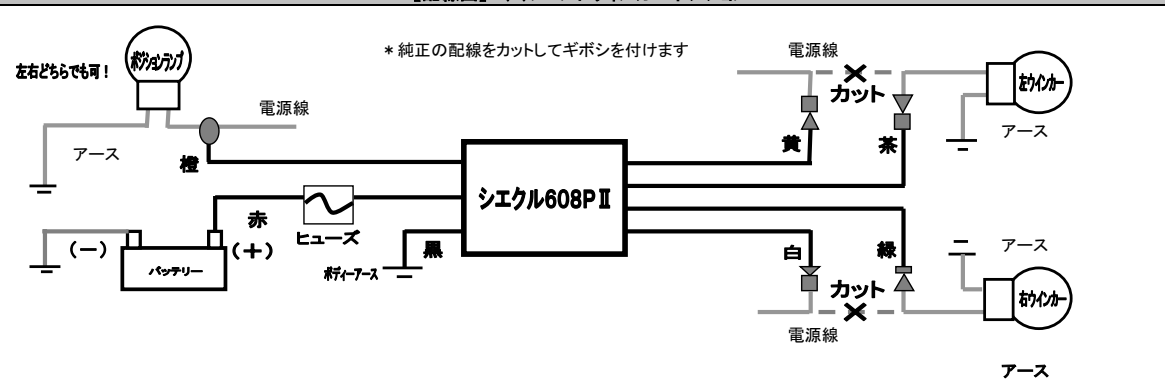
プラス側にて判断して下さい。

注意! 輸入車は上記方法にて判断できない場合があります。

#### 【プラス側、マイナス側の判断方法】

- ハイビームの左右どちらかのコネクタを抜きます。
- 抜いたコネクタにテスターをあてて判断して下さい。
  - ※プラス側→ハイビームにした時に12vが発生
  - ※マイナス側→ボディと導通

#### 【配線図】(A)フロントウインカーポジション

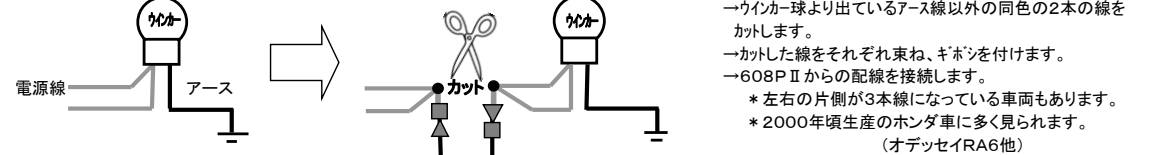


- ①右ウインカーの電源側の車両配線をカットして、車両側へメスギボシを付けてS608P IIの白線、バルブ側へオスギボシを付けてS608P IIの緑線を接続して下さい。
- ②左ウインカーの電源側の車両配線をカットして、車両側へメスギボシを付けてS608P IIの黄線、バルブ側へオスギボシを付けてS608P IIの茶線を接続して下さい。
  - ★白、緑と黄、茶の接続関係は逆でも可(例. 右ウインカーに黄、茶のペア 左ウインカーに白、緑ペア)
- ③S608P IIの橙線をポジションランプ(左右どちらでも可)の電源線へスプライス(ハンダ付け推奨)により接続して絶縁テープで保護してください。
- ④S608P IIの赤線を車両のバッテリーの(+)に接続してください。
- ⑤S608P IIの黒線をボディアースして下さい。塗装部分にアースをする場合は塗装をはがして下地を出してからボディアースしてください
- ⑥配線は電動ファンや駆動部品に触れぬようにまとめて下さい。

#### <バルブより3本配線が出ている場合の配線方法>

※電源が2本の場合とアースが2本の場合があります。テスターにて確認してから配線をおこなって下さい。

- パターン1(電源線2本、アース線1本)



→ウインカー球より出ているアース線以外の同色の2本の線を

カットします。

→カットした線をそれぞれ東ね、ギボシを付けます。

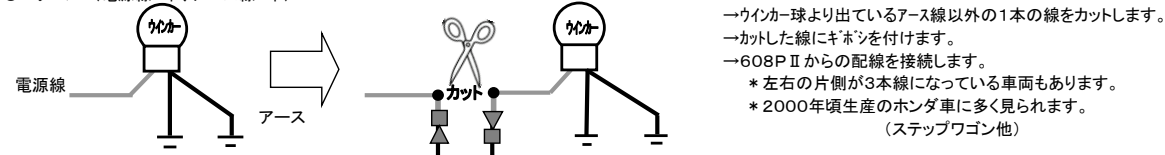
→608P IIからの配線を接続します。

\* 左右の片側が3本線になっている車両もあります。

\* 2000年頃生産のホンダ車に多く見られます。

(オデッセイRA6他)

- パターン2(電源線1本、アース線2本)



→ウインカー球より出ているアース線以外の1本の線をカットします。

→カットした線にギボシを付けます。

→608P IIからの配線を接続します。

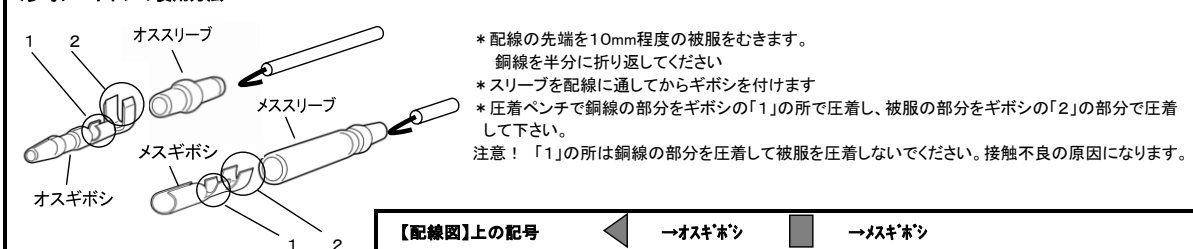
\* 左右の片側が3本線になっている車両もあります。

\* 2000年頃生産のホンダ車に多く見られます。

(ステップワゴン他)

<圧着端子使用方法> ●圧着端子類の使用法、注意点を帰してあります。作業時の参考にして下さい。

#### <参考> ギボシの使用法



\* 配線の先端を10mm程度の被服をむきます。

銅線を半分に折り返してください

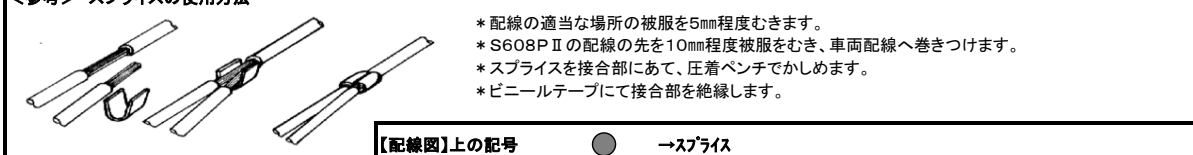
\* スリーブを配線に通してからギボシを付けます

\* 圧着ペンチで銅線の部分をギボシの「1」の所で圧着し、被服の部分をギボシの「2」の部分で圧着して下さい。

注意! 「1」の所は銅線の部分を圧着して被服を圧着しないでください。接触不良の原因になります。

【配線図】上の記号 ◀ →オスギボシ ▶ →メスギボシ

#### <参考> スプライスの使用法



\* 配線の適当な場所の被服を5mm程度むきます。

\* S608P IIの配線の先を10mm程度被服をむき、車両配線へ巻きつけます。

\* スプライスを接合部にあて、圧着ペンチでかします。

\* ビニールテープにて接合部を絶縁します。

【配線図】上の記号 ● →スプライス

